「電卓」 なる用語

「電卓」 とは 「電子卓上計算機」 の短縮形。 メーカー間で繰り広げられた 「軽薄短小」 の技術戦争の末、カードの大きさに辿り着き、今は使い易さ優先の葉書大の辺りが中心なので、卓上に載ることがそんなに大きなニュースであったなど、若い人は言われなければ気付くまい。

商業的には一定の成功を収めた我が国初の電卓が、シャープからお目見えしたのは 1964年、東京オリンピックの年。 当時は 「電卓」 などという略称は一般化しておらず、正式な名称も 「電子卓上計算機」 よりは 「卓上電子計算機」 の方が多かった。 昔からお店屋さんで使われていた 「レジスター （加算機）」 や 「卓上計算機」 が電子化したという認識よりも、学術研究の場を中心に普及し始めていた 「電子計算機」 が、遂に卓上に載った、という感慨の方が、上回ったという訳だ。 成る程、それならネーミングのセンスは実に正しい。 （そのため黎明期には 「電卓」 ではなく 「卓電」 と呼んだ、という話も耳にしたことがあるが、それは特定の会社の中だけではないかと思う。）

1945年以後の朝日新聞の記事はマイクロフィルム （若しくは DVD） に収められていて、新聞博物館に行くと、タイトルと内容のキーワードだけは、コンピュータ検索できる。「電卓」 のキーワード検索に引っ掛かる最古の記事は、1967年 7月。 標題が 「売れっ子 『卓上電算機』」 であることにまず注目。 中身は業界動向、とりわけ対米輸出の特許障壁を扱っており、名称は 「電子式卓上計算機」 のみ、どこにも 「電卓」 の略称は出て来ない。 翌年は 0件。 1969年には 4件の記事があるものの、「世界で最小の電子式卓上計算機 － 立石電機が開発」 の標題が示す通り、未だ 「電卓」 は出て来ない。

1970年 4月、「『電卓』 進出で王座交替 （ソロバン 400年の伝統、ご破算に願いまして ･･･）」 の標題が漸く現れ、銀行や算盤塾での情勢変化を報じている。 どうやら 「電卓」 の用語が社会に根付いたのはこの頃、と考えて良さそうだ。「電」 にしても 「卓」 にしても、エレクトロニクス化の先頭を走ったればこその、先手必勝だったかも知れない。

（初出 Aug. 25, 2008）
（改訂 Mar. 5, 2012）

参考:「朝日新聞に見る『電卓』関連記事の登場回数」

（朝日新聞東京版、1945 ～ 75年）

1945年 ～
1963年 0件

1964年 0件
1965年 0件
1966年 0件
1967年 1件 ＊
1968年 0件
1969年 4件 ＊＊＊＊
1970年 14件 ＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊
1971年 19件 ＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊
1972年 26件 ＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊
1973年 11件 ＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊
1974年 12件 ＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊
1975年 22件 ＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

資料作成: 工房 Nishi
調査協力: 日本新聞博物館 （横浜市中区）